

# 寸言

大同特殊鋼株式会社  
常務執行役員  
素形材事業部長  
松尾 宗義



## 「日々になる、特殊な鋼」で支える航空宇宙産業

大同特殊鋼株式会社は1916年の創業以来、特殊鋼製造を中心とした事業を展開し、自動車、産業機械、エネルギーなど社会を支える様々な産業に特殊鋼鋼材や機能性材料を供給してまいりました。なかでも航空機においては1976年に合併した日本特殊鋼(株)による戦前からの技術と商品群を源流とし、合併後に移管された群馬県の渋川工場で1986年に中型旅客機用エンジンV2500に供されるシャフトの供給を開始して以来、民間航空機エンジン用シャフトを主力製品として様々な材質や形状の素材を供給しております。近年では2017年にエンジンOEMのP&W社よりアジア高合金製造メーカーとして初めて高速回転体用ニッケル合金素材について製造認定を受ける等、材料・新型エンジンプログラムの製造認定とサプライチェーンへの販売拡大を続け、今日では中・大型旅客機の世界シェアおよそ40% (当社推計) を有するに至りました。

世界的な航空需要はコロナ禍で一度大きく落ち込んだものの2022年から徐々に回復し、今後さらに継続的な成長が見込まれ、素材への需要もより高まっていくものと推測しております。当社の航空機部材製造拠点である渋川工場においては7,000トン自由鍛造機、高速四面鍛造機、堅型熱処理炉や水浸超音波検査装置等を配備し、溶解から検査までの一貫製造体制により高い再現性や信頼性を担保できる保証体制をバックボーンとした生産体制を構築しております。伸び続ける航空需要にお応えすべく、近年では2016年に世界トップクラスの大型 (25トン) 真空誘導炉 (VIM) を、

2019年から2023年にかけて3基の真空アーク再溶解炉 (VAR) を増設する等、高品質製品の生産能力増強を継続しています。航空分野に限らず、エネルギー、ITなどをはじめとする成長市場を支えるべく、今後もお客様のニーズに合わせ技術力の向上と生産能力の増強を継続していく方針です。

こうした技術・生産の拡充の一方、産業界、とりわけ鉄鋼業の一員として、SDGsやカーボンニュートラル等、ESGへの取組も喫緊の課題です。当社では、自社保有する自然林 (「クッチャロ大同の森」北海道浜頓別町) の保全などの社会的な取り組み、モビリティ変革やエネルギー効率向上を支える新材料の開発、電炉の特性を生かしたスクラップ回収と活用強化による循環型社会を目指す取り組み等を通じ、環境負荷の低減と持続可能な社会への貢献を推進していきます。特に希少金属のスクラップからの回収は航空産業の持続的成長に欠かせない重要課題と認識しています。

最後になりますが、日本航空宇宙工業会のご支援の下、本年7月の英ファンボローエアショーへの出展を計画しています。参加される会員の皆様と共に、チーム・ジャパンの一員として世界の航空業界に向けて弊社の取組みをアピールさせていただければと考えております。今後も堅調な成長が見込まれる航空需要の中、会員の皆様と共に更なる成長を目指して参りますので、今後もしばしばご指導ご支援をお願い申し上げます。